

# 行政視察研修 委員会 会派

## 文教福祉常任委員会

彦根健康づくり・尼崎市の生活習慣改善予防

平成19年10月1日～3日までの3日間、滋賀県彦根市、兵庫県尼崎市、淡路市及び南淡路市を行政視察しました。彦根市では市民が主体となった健康まちづくりをめざしています。事業の特色は40～60歳代が中心の生活習慣病を改善する取組みで、実現の可



生活習慣改善予防を実施している尼崎市にて

能性と効果に基づき優先度の高い「脂ものチーム」「ウォーキングチーム」などを設置して推進しています。

尼崎市は65歳未満の脂肪割合が高いことから原因を究明し、予防可能な生活習慣病が2割を占めている事に着目しました。対策として若年層からの生活習慣改善の予防施策を実施しており、20～49歳までを対象に特定健診、保健指導など行っています。

淡路市では、行政と民間が協力して地域資源であるスポーツ施設を活用したまちづくりが進められており、近隣県からの参加スポーツ大会にも合宿特化型ホテルを有しアスリートをサポートしています。南淡路市は青少年健全育成事業として「わんぱく塾」を開催、遊びを通して共に楽しみ学び、自分の考えを表現し他人に共感する力を有する子ども育成に取り組んでいます。

## 政策総務常任委員会

パブリックコメント・車座談

義・北会津地域巡回バス整備事業・コミュニティバス事業  
平成19年10月3日～5日、栃木県那須塩原市、福島県会津若松市、新潟県新発田市の行政視察を行いました。

那須塩原市のパブリックコメントは、行政の基本的な計画、指針や条例を制定、改定する過程で内容を市民に公表し、意見等を考慮して計画を定めるとともに、意見に対する



住民参画によりバスを運行する新発田市にて

る市の考え方を公表するもの。車座談は住民自治を実現するため、市民と行政が協働する体制づくりと定義、提起された方策を実現するために財政面からも支援している。

会津若松市の北会津地域巡回バス整備事業は、旧北会津村と市の中心部を結ぶ路線バスで、新市の一体化を促進するための事業として行われています。ボンネットバスで、初期費用は2502万5801円という。

新発田市のコミュニティバス事業は、合併による地域の拡大に伴う生活交通の確保などの課題を解決するため、住民参画により運行を開始した。運行主体は新発田市、業務はNPOに委託。通学支援と病院に通う高齢者の支援策としての役目を担っている。

## 市民環境常任委員会

自主防災リーダーの育成事業  
100万人のごみ減量大作戦再開発ビルについて  
商工振興及び放置自転車対策  
平成19年10月10日～12日、

岩手県一関市、宮城県仙台市及び福島県郡山市の視察を行いました。

本市とほぼ同時期に市町村合併した一関市では、5月現在153団体の自主防災組織があり、行政による積極的な支援が展開されていました。体育館で避難所体験をする事により、防災知識と技術を習得させるサバイバルキャンプ



再開発ビル内のスペースパークにて

事業を実施していました。仙台市では、環境対策事業として、資源回収を積極的に取り組んでいました。スーパーでは、有料レジ袋のテストも開始していました。郡山市では、公共公益施設を含む駅前再開発ビル「ピッ

グアイ』を訪れました。行政サービス窓口や図書コーナーを有する市民ふれあいプラザ、会議や研修の為の会議室等を備える市民交流プラザは、文化の交流拠点として活用されていました。また、放置自転車対策では、監視員の配備により、駅周辺環境美化を積極的に取り組んでいました。

### まちづくり常任委員会

愛媛県松山市「松山中央公園整備事業」のまちづくり  
平成19年10月22日～24日、  
愛媛県松山市、香川県高松市、徳島県阿南市の視察研修を行いました。

従来から松山市中心地にあった松山市営球場、陸上競技場、庭球場、プール等の老朽化が進み、また、現地の文化財保護の観点から堀の内の整備について検討がなされた結果、昭和43年に運動公園として都市計画決定されていたので現在の場所に施設を移転することに決定しました。  
公園面積41・19ヘクタールの中に、坊ちゃんスタジアム



松山市の坊ちゃんスタジアムにて

(野球場)マドンナスタジアム(サブ野球場)、屋外ブルペン、テニスコート、運動広場、屋内運動場、であいフィールド(多目的広場)、アクアパレット(まつやま(プール)、愛媛県武道館等が設置されている総合的な運動公園であります。  
屋内運動場は、人工芝グラウンドで、野球、ソフトボール、フットサルやグラウンドゴルフ等が利用できます。であいフィールドは自転車競技やコンサートなどにも利用できる壮大な施設となっている。公園内にはバス乗り場が整備され、鉄道の駅が隣接しており多くの市民に利用のしやすいスポーツ公園でした。

### クリーン・ネット21

多文化共生プログラム事業  
まちづくり基本条例  
堺市クリーンセンター  
平成19年10月29日～31日、  
滋賀県湖南市、兵庫県宝塚市、大阪府堺市を視察しました。  
湖南省の外国人登録者数は3323人(平成19年1月現在)、市人口の6%近くを占める。湖南省は製造業が盛んな



堺市クリーンセンターの健康増進施設にて

まちで、外国人労働者を受け入れやすい環境である。市役所には5人の翻訳、通訳担当職員を配置。日本語が理解できない外国人住民が市役所を訪れたときに通訳をし、電話での相談にも頻繁に応じている。宝塚市では平成7年の阪神淡路大震災で住民の行政へ

の過度の依存が緩和し、市民の協働が拡大した。住民や地域の視点に立った行政システムへと変革されようとしている。堺市では平成9年3月に竣工した。従来の蒸気タービン発電とガスタービン発電を組み合せガスタービン排気をボイラー蒸気の再加熱に利用して蒸気タービン発電出力の効率を23%アップさせた堺市方式の高効率複合発電(スーパークリーン)である。

### 社会民主党

一問一答方式は  
質疑のやり取りが判り易い  
社会民主党の平成19年度行政視察研修は、平成19年10月29日から31日の間で実施しました。

視察研修先とテーマは岐阜県瑞浪市が「一般質問における対面一問一答方式について」、愛知県犬山市が「健康の駅さくら・さくら施設について」、大阪府箕面市が「小中一貫校の取組みについて」でありました。  
瑞浪市議会では議会改革の



瑞浪市議会議場にて

一環として平成16年11月から議会運営委員会で一問一答方式の導入に向け、先進地の視察研修を行いながら検討を重ねてきたこのことです。その結果、平成17年9月議会から導入したこのことです。  
尚、質問時間は答弁を含め60分となっております。  
この方式を導入したことによるメリットとして議会事務局は、議会と執行部との間に適度な緊張感が生まれたこと。質問・答弁双方が単刀直入に行うことから傍聴者から質疑のやりとりが判り易くなったという二点を挙げていました。  
社会民主党は、この視察結果を踏まえ鴻巣市議会でも一問一答方式の導入について検討機関を設け検討すべきとの提案を会派代表者会議の場で行いました。